

FUKUYAMA NOW

<福山の概要> 平成30年版

目次

1. 概況	2
2. 人口	4
3. 労働	6
4. 事業所	8
5. 工業	10
6. 卸売業	12
7. 小売業	14
8. 流動客調査	16
9. 企業	18
10. JR福山駅前整備事業	20
11. 港湾	22
12. 貿易	24
13. 地場産品・特産品	26
14. 観光	28
15. 都市比較・親善友好都市	30
16. 大学・短期大学校	32
17. 大規模小売店舗	33
18. 福山商工会議所年表	34
19. 福山商工会議所概要	41

*統計については、経済センサスの実施前後で集計対象などが異なり、単純な比較ができない場合があります。

1. 概況

～「活力と魅力に満ちた輝くまち」を目指して～

●位置・市域

瀬戸内の中央、備後圏のリーダーとして

福山市は、広島県の東南端、瀬戸内海に面した山陽道のほぼ中央に位置している。東の岡山市から58km、西の広島市から103kmの距離を隔て、それら大都市の影響を大きく受けることなく、政治経済、文化等、あらゆる面で備後圏のリーダーとして役割を担っている。市域は、平成28年10月1日現在、東西29.5km、南北45.7km、面積518.14km²。

●歴史

文学・歴史の舞台となった鞆の浦

福山の歴史は非常に古く、福山市の南部、沼隈半島の先端に位置する鞆の浦は、潮待ち風待ちの港として栄え、「万葉集」で大伴旅人の歌にも詠まれている。

南北朝時代、足利尊氏が京都に攻め上がる最後の軍議を鞆の浦で行ったとあり、室町時代後半になると、中国地方の覇者となった毛利氏が、鞆の浦を重要視し、鞆城を築いている。室町幕府最後の将軍、足利義昭は天正元年（1573年）に織田信長によって京都を追われ、天正4年（1576年）、鞆城に入り、信長包囲網を築くために画策する。しかし、秀吉と講和を結ぶことによって、幕府再興の夢はついで、「足利氏は鞆に興り、鞆に亡ぶ」と言われるゆえんとなった。

江戸時代の初期には、城下町的色彩が残っていたが、次第に港町の性格が強まり、鞆の津と呼ばれるようになった。特に朝鮮通信使の寄港になるなど、瀬戸内の要港として発展した。現在も残る、古い町並みや数ある神社仏閣、そして港湾施設に往時の繁栄の跡を偲ぶことができる。

備後10万石の領主、水野勝成が命名

近世に至り、元和5年（1619年）水野勝成が備後10万石の領主となり、この地を福山と命名。久松城を築き、芦田川河口のデルタ地帯を干拓し、城下町の整備を進めた。水野氏5代（1619～1698年）、松平氏1代（1700～1710年）、阿部氏10代（1710～1868年）の治政が版籍奉還まで続き、今日のいしずえが築かれた。

明治になってからは、県庁、支庁や郡役所が置かれ、地方行政の中心的役割を果たし、明治22年市町村制施行で福山町となった。その後、山陽本線・地方私鉄が開通するなど町の基盤づくりが進められた。

福山市誕生～福山空襲で甚大な被害

大正5年、市制施行により、市域5.8km²、人口32,356人の福山市が誕生した（全国73番目、広島県内4番目）。その後、隣接する12カ村の合併により市域を拡大した。

第2次世界大戦中の昭和20年8月8日には、市街地の8割が焦土と化す空襲を受けて、多くの死傷者が出、産業面でも大きな打撃となった。しかし、翌年からの都市計画事業と市民のおう盛な復興意欲によって、現在の近代的な市街地の形成が始まった。

戦後復興～西日本有数の工業都市へ

昭和50年までに、松永市など1市14町村との合併が行われたことにより、市域・人口は拡大を続けた。また、国道・山陽新幹線などの基盤整備が進められ、山陽と山陰および四国を結ぶ文化・交通の要衝都市として急速に発展した。

産業面では、繊維製品、木工品、量表や琴などの特色ある伝統的地場産業に加え、昭和36年には世界一の規模を誇る日本鋼管(株)福山製鉄所（現JFEスチール(株)西日本製鉄所）の誘致が決定。昭和39年、備後地区工業整備特別地域の指定を受け、重工業化が進み、西日本有数の工業都市となった。

文化面では、市花であるばらの祭典が昭和31年「バラ展示会」として市民の手で始められた。昭和46年からは福山祭委員会主催による市民総ぐるみの「福山ばら祭」として、毎年開催されるようになった。現在でも、海外や県内外から多くの人々が訪れ、福山市最大のイベントとして親しまれている。

中核市へ移行～市制施行100周年

平成5年、「地方拠点都市地域」の指定を受け、平成10年には中国地方では岡山市に次いで2番目となる「中核市」へ移行するなど、福山市の拠点性はますます高まってきた。さらに、合併特例法大幅改正によるいわゆる「平成の大合併」で、平成15年から新市町、内海町、沼隈町、神辺町と合併。人口約47万人を擁する県内第2位、中国地方第4位の都市として発展を続けている。

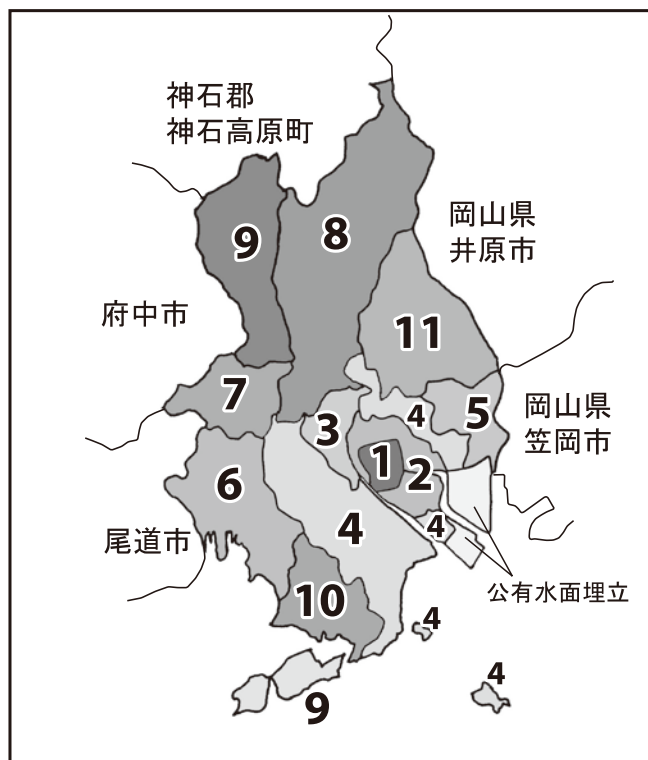
このように都市の成長とともに、平成28年市制施行100周年を迎え、さらに、「人間環境都市」を基底に「活力と魅力に満ちた輝くまち」をめざしている。



市章(大正6年7月1日制定)

福山城があるところは、もとは蝙蝠山(こうもりやま)と称していたが、「蝠」は福に通じることから「福山」と称された。その蝙蝠と山をかたどり、市章としたもの。

●市域とその変遷



1. 大正5年7月1日、市制施行
人口 32,356人 面積 5.8km²
2. 昭和8年1月、10カ村を編入
(川口、手城、深津、奈良津、吉津、木之庄、本庄、神島、佐波、草戸)
3. 昭和17年7月、2カ村を編入(山手、郷分)
4. 昭和31年9月、10カ町村を編入
(引野、市、千田、御幸、津之郷、赤坂、瀬戸、熊野、水呑、鞆)
5. 昭和37年1月、深安町を編入
6. 昭和41年5月、松永市を編入
7. 昭和49年4月、芦田町を編入
8. 昭和50年2月、2カ町を編入(加茂、駅家)
9. 平成15年2月、2カ町を編入(内海、新市)
10. 平成17年2月、沼隈町を編入
11. 平成18年3月、神辺町を編入

●データで見る福山市の姿

項 目		数 値	調 査 年	備 考	
●人 口		470,630 人	平成28年3月31日	福山市「住民基本台帳」(外国人を含む)	
●世 帯 数		202,995 世帯	平成28年3月31日		
●面 積		518.14 Km ²	平成28年10月1日	全国都道府県別市町村面積調査	
●事 業 所	①民営事業所数	21,683 社	平成26年7月1日	平成26年経済センサス-基礎調査	
	②従業者数	212,490 人			
●工 業	①事業所数	1,371 社	平成28年6月1日	平成28年経済センサス-活動調査 (従業員4人以上の事業所)	
	②従業者数	38,240 人			
	③製造品出荷額等	21,448 億円			
●商 業	1. 卸売業	①事業所数	1,649 事業所	平成26年7月1日	平成26年商業統計調査
		②従業者数	14,856 人		
		③年間商品販売額	9,229 億円		
	2. 小売業	①事業所数	3,998 事業所	平成26年7月1日	平成26年商業統計調査
		②従業者数	29,433 人		
		③年間商品販売額	4,814 億円		
●貿 易	①輸出	433,852 百万円	平成29年(速報値)	神戸税関福山税関支署	
	②輸入	449,202 百万円			

2. 人 口

～大正5年の市制施行より1世紀、総人口は約47万人～

福山市の人口は、大正5年市制施行時の32,356人以来、周辺市町村との編入・合併を繰り返し、増加を続けてきた。平成27年10月に実施された総務省統計局「国勢調査」確報値による福山市の人口は、464,811人で平成22年に比べ3,454人、0.7%増加し、大正9年国勢調査開始以来（昭和15年調査を除く）、一貫して増加している。広島県全体の人口に占める福山市の割合は16.3%。

年齢別人口の平成27年調査結果をみると年少人口（0～14歳）は総人口比14.0%で少子化により減少している。生産年齢人口（15～64歳）も総人口比59.1%で平成7年調査をピークに減少に転じた。老年人口（65歳以上）の割合は26.9%と、昭和60年調査と比べ約2.6倍増加しており、高齢化が進んでいる。

福山市の世帯数、人口及び人口動態の推移

(単位：世帯、人、%) 福山市「住民基本台帳」

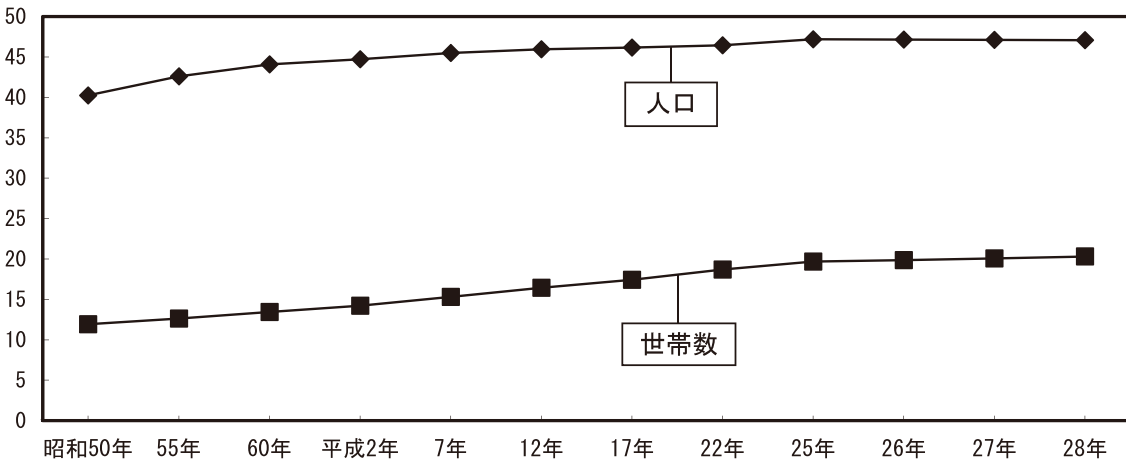
年	世帯数	人 口			自然 動態	社会 動態	
		総数	増加率	男			女
昭和60年	134,279	440,613	-	215,164	225,449	2,640	-1,108
平成 2年	142,062	447,142	0.2	217,535	229,607	1,708	-141
7年	153,275	454,964	0.3	221,367	233,597	1,386	-142
12年	164,364	459,628	1.0	223,275	236,353	1,381	-295
13年	166,478	460,568	0.2	223,711	236,857	1,266	-878
14年	168,069	460,536	(0.0)	223,448	237,088	996	-487
15年	170,220	461,104	0.1	223,693	237,411	935	-435
16年	172,190	461,202	0.0	223,677	237,525	819	-534
17年	174,296	461,649	0.1	223,824	237,825	421	-159
18年	176,730	462,011	0.1	223,956	238,055	463	5
19年	179,354	462,775	0.2	224,293	238,482	762	-37
20年	181,883	463,284	0.1	224,772	238,512	328	-190
21年	184,458	463,582	0.1	224,973	238,609	412	586
22年	186,799	464,558	0.2	225,360	239,198	395	243
23年	189,032	465,273	0.2	225,860	239,413	166	577
24年	191,075	465,391	0.03	225,918	239,473	-350	353
25年	196,983	471,892	-	228,720	243,720	-25	-241
26年	198,688	471,543	-0.1	228,519	243,024	-337	-202
27年	200,564	470,944	-0.1	228,499	242,445	-390	16
28年	202,996	470,630	-0.1	228,736	241,894	-875	212

- ・世帯数と人口は、各年とも平成28年4月1日現在の市域を対象とした数値で記載。
- ・平成24年までは外国人を含まない。平成25年以降は外国人を含む。（平成24年7月住民基本台帳法変更により）そのため平成25年の増加率を記入していない。
- ・世帯数と人口は、昭和35年～昭和50年は4月1日現在、昭和55年以降は3月31日現在。
- ・増加率は、人口総数の対前年比。
- ・自然動態・社会動態は、12月31日現在。旧内海町・旧新市町は平成15年1月まで、旧沼隈町は平成17年1月まで、旧神辺町は平成18年2月まで含まれていない。

福山市の人口・世帯数の推移

福山市「住民基本台帳」

(万人・世帯)



昭和50年 55年 60年 平成2年 7年 12年 17年 22年 25年 26年 27年 28年

- ・各年とも平成28年4月1日現在の市域を対象とした数値で記載。
- ・世帯数と人口は、昭和50年までは4月1日現在、以降は3月31日現在。
- ・平成24年までは外国人を含まない。平成25年は外国人を含む。

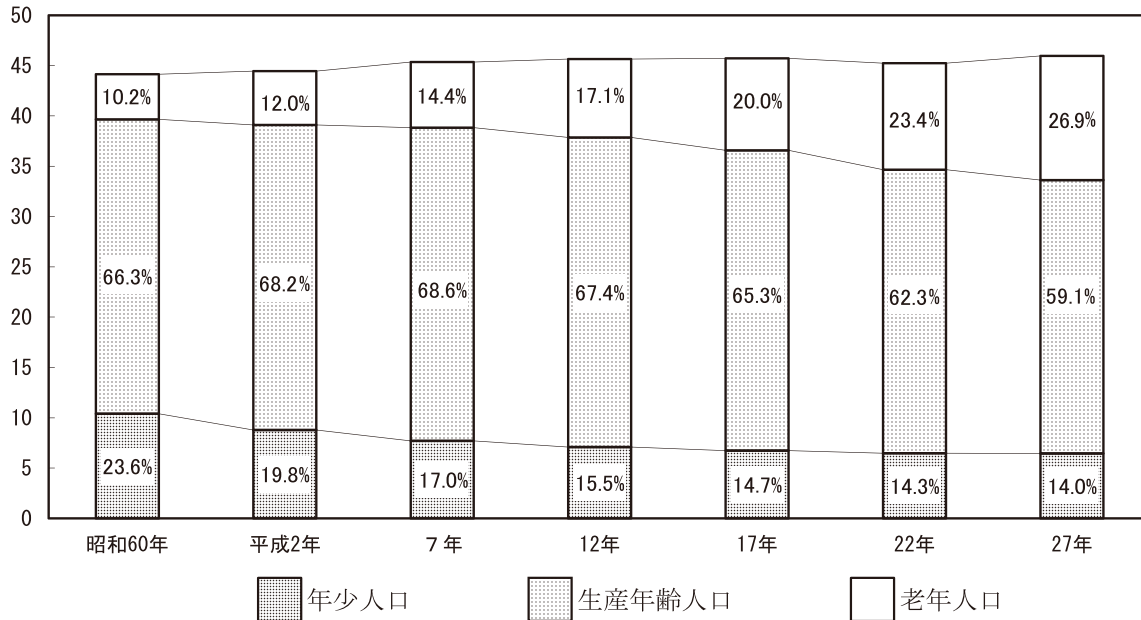
年齢階層別の推移

総務省統計局「国勢調査報告」

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年
老年人口 (65歳～)	44,857	53,506	65,226	77,917	91,432	105,858	123,441
生産年齢人口 (15～64歳)	292,636	303,213	311,348	307,751	298,507	281,828	271,739
年少人口 (0～14歳)	103,964	87,820	77,001	70,875	67,325	64,738	64,496
年齢不詳	45	864	216	365	1,823	8,933	5,135
総数	441,502	445,403	453,791	456,908	459,087	461,357	464,811

- ・各年とも平成28年4月1日現在の市域を対象とした数値で記載。

(万人)



- ・グラフ中の数値は、各年の人口（年齢不詳を除く）を100%としたときの各年齢階層の割合。

総務省統計局「国勢調査報告」

3. 労働

～福山市の就労人口は約21万人、製造業が最多～

平成27年「国勢調査」による福山市の15歳以上就労人口を総数で見ると213,452人となっている。また、その推移は、平成12年以降減少していたが、増加に転じている。

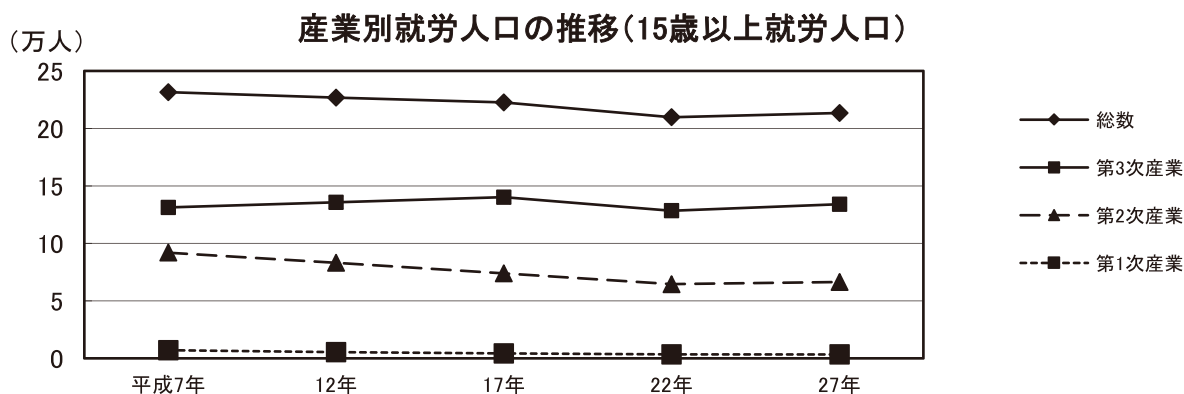
次に、産業別で見ると、第1次産業3,365人、第2次産業66,376人、第3次産業134,117人となっており、第3次産業に従事している人がもっとも多い。産業別就労人口の推移を平成7年調査以降で見ると、第1次産業が減少傾向、第2次・第3次産業の就労人口は平成22年に減少したが、この度増加に転じた。

福山市の15歳以上就労人口を産業分類で見ると、第2次産業における「製造業」49,601人がもっとも多く、次いで第3次産業における「卸売・小売業」35,327人、同「医療、福祉」28,033人、第2次産業「建設業」16,736人と続いている。

産業(大分類)別、福山市の就労人口の推移(15歳以上就労者)

(単位：人) 総務省統計局「国勢調査報告」

調査年	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業
平成7年	231,548(100%)	7,081(3.1%)	91,903(39.7%)	131,143(56.6%)	1,421(0.6%)
12年	226,687(100%)	5,442(2.4%)	83,137(36.7%)	135,821(59.9%)	2,287(1.0%)
17年	222,655(100%)	4,183(1.9%)	73,975(33.2%)	140,202(63.0%)	4,295(1.9%)
22年	209,716(100%)	3,487(1.7%)	64,573(30.8%)	128,374(61.2%)	13,282(6.3%)
27年	213,452(100%)	3,365(1.6%)	66,376(31.1%)	134,117(62.8%)	9,594(4.5%)
(平成27年内訳)		農業 3,075 林業 62 漁業 228	鉱業 39 建設業 16,736 製造業 49,601	電気・ガス・熱供給・水道業 833 情報通信業 2,108 運輸業 11,905 卸売・小売業 35,327 金融・保健業 3,827 不動産業 2,884 学術研究・専門・技術サービス業 5,048 飲食店・宿泊業 10,308 生活関連サービス業、娯楽業 7,328 医療、福祉 28,033 教育、学習支援業 8,660 複合サービス業 1,787 サービス業(他に分類されない) 11,284 公務 4,785	



総務省統計局「国勢調査報告」

有効求人・求職状況(学卒を除きパートタイムを含む全数)

総務省統計局「労働力調査年報」

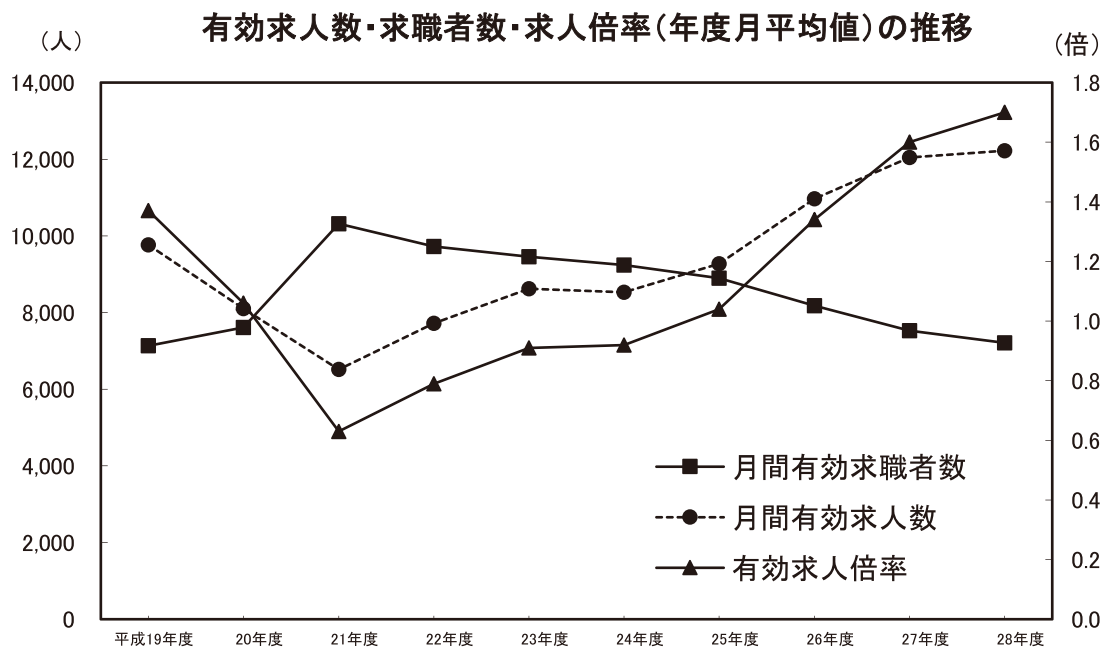
(単位:人、倍、%)

福山公共職業安定所「業務年報」、「ハローワークふくやま」

年次	月間有効求人数	月間有効求職者数	有効求人倍率	全国完全失業率
平成19年度	9,769	7,133	1.37	3.8
20年度	8,101	7,609	1.06	4.1
21年度	6,515	10,317	0.63	5.2
22年度	7,721	9,721	0.79	5.0
23年度	8,620	9,456	0.91	4.5
24年度	8,531	9,243	0.92	4.3
25年度	9,271	8,901	1.04	3.9
26年度	10,965	8,179	1.34	3.5
27年度	12,050	7,528	1.60	3.3
28年度	12,223	7,211	1.70	3.0
平成29年 4月	12,427	7,261	1.71	2.8
5月	12,102	7,292	1.66	3.1
6月	12,485	7,184	1.74	2.8
7月	12,846	6,741	1.91	2.8
8月	12,880	6,724	1.92	2.8
9月	12,931	6,838	1.89	2.8
10月	12,999	6,780	1.92	2.8
11月	12,617	6,462	1.95	2.7
12月	12,314	6,170	2.00	2.8

・年次の数値は各年度月平均値。

・平成20年度までは、芦田町、駅家町、新市町を除く。



福山公共職業安定所「業務年報」、「ハローワークふくやま」

4. 事業所

～事業所数・従業者数とも卸売・小売業が構成比トップ～

平成26年経済センサス—基礎調査によると、平成27年7月1日現在の福山市の事業所数は21,683事業所、従業者数は212,490人となった。（公務を除く）

業種別の構成比は、事業所数では卸売・小売業が5,647事業所（構成比26.0%）で最も多く、次いで製造業が2,671事業所（同12.3%）、宿泊業・飲食サービス業が2,425事業所（同11.2%）となっている。

従業者数では、卸売業・小売業が45,459人（同21.4%）で最も多く、次いで製造業が44,868人（同21.1%）、医療・福祉が26,470人（同12.5%）となっている。

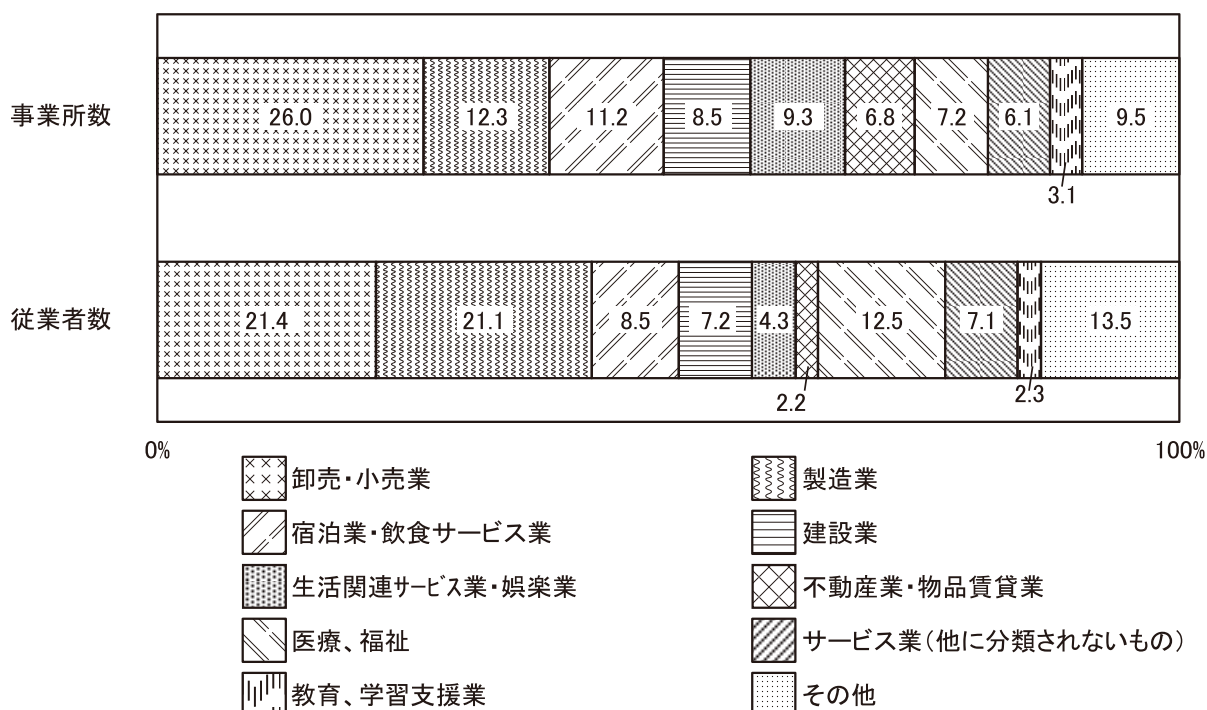
福山市 産業大分類別全事業所数・従業者数の構成比

平成24年経済センサス—活動調査
平成26年経済センサス—基礎調査
（単位：事業所、人、%）

順位	産業大分類	事業所数			従業者数		
		24年	26年	全産業の構成比	24年	26年	全産業の構成比
	全産業	21,666	21,683	100.0	206,888	212,490	100.0
1	卸売業・小売業	5,595	5,647	26.0	43,813	45,459	21.4
2	製造業	2,764	2,671	12.3	45,487	44,868	21.1
3	宿泊業・飲食サービス業	2,436	2,425	11.2	17,486	18,090	8.5
4	建設業	1,884	1,840	8.5	15,522	15,220	7.2
5	生活関連サービス業・娯楽業	2,032	2,008	9.3	9,660	9,080	4.3
6	不動産業・物品賃貸業	1,456	1,477	6.8	4,339	4,639	2.2
7	医療・福祉	1,407	1,555	7.2	23,483	26,470	12.5
8	サービス業（他に分類されないもの）	1,383	1,316	6.1	13,746	15,020	7.1
9	教育・学習支援業	633	682	3.1	4,432	4,879	2.3
10	その他	2,076	2,062	9.5	28,920	28,765	13.5

・公務を除く。

平成26年 福山市 産業大分類別全事業所数・従業者数の構成比



広島県の事業所数は130,789事業所（全国に占める割合2.4%）、従業者数は1,296,824人（同2.3%）となっており、都道府県別にみると事業所数および従業者数はともに全国で11位となっている。（公務を除く）

広島県の市町別の事業所数をみると、最も多いのは広島市の54,807事業所（構成比41.9%）、次いで福山市の21,683事業所（同16.6%）、呉市の10,067事業所（同7.7%）の順となった。

広島県の市町別の従業者数をみると、最も多いのは広島市の579,888人（構成比44.7%）、次いで福山市の212,490人（同16.4%）、呉市の94,876人（同7.3%）の順となった。

広島県・上位3市の事業所数・従業者数(民营)

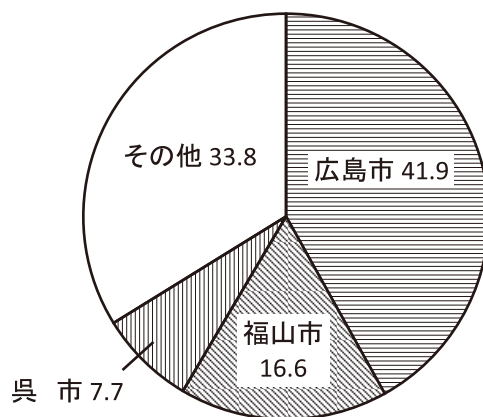
平成26年経済センサス基礎調査
(単位：事業所、人、%)

順位	県・市	事業所数			従業者数		
		24年	26年	県内の構成比	24年	26年	県内の構成比
	広島県	129,504	130,789	—	1,287,533	1,296,824	—
1	広島市	53,302	54,807	41.9	571,528	579,888	44.7
2	福山市	21,666	21,683	16.6	206,888	212,490	16.4
3	呉市	10,127	10,067	7.7	92,997	94,876	7.3

・公務を除く。

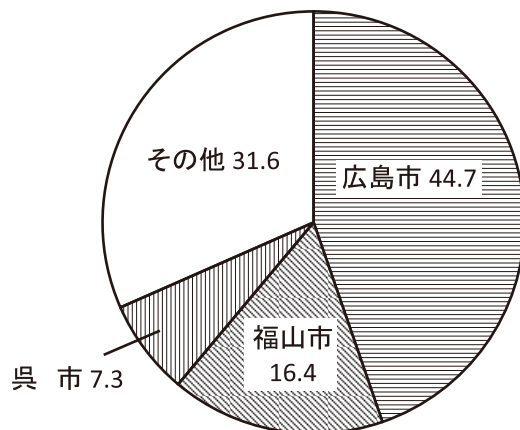
平成26年

広島県・上位3市の事業所数 (単位:%)



平成26年

広島県・上位3市の従業者数 (単位:%)



5. 工業

～製造品出荷額等 3年連続増加～

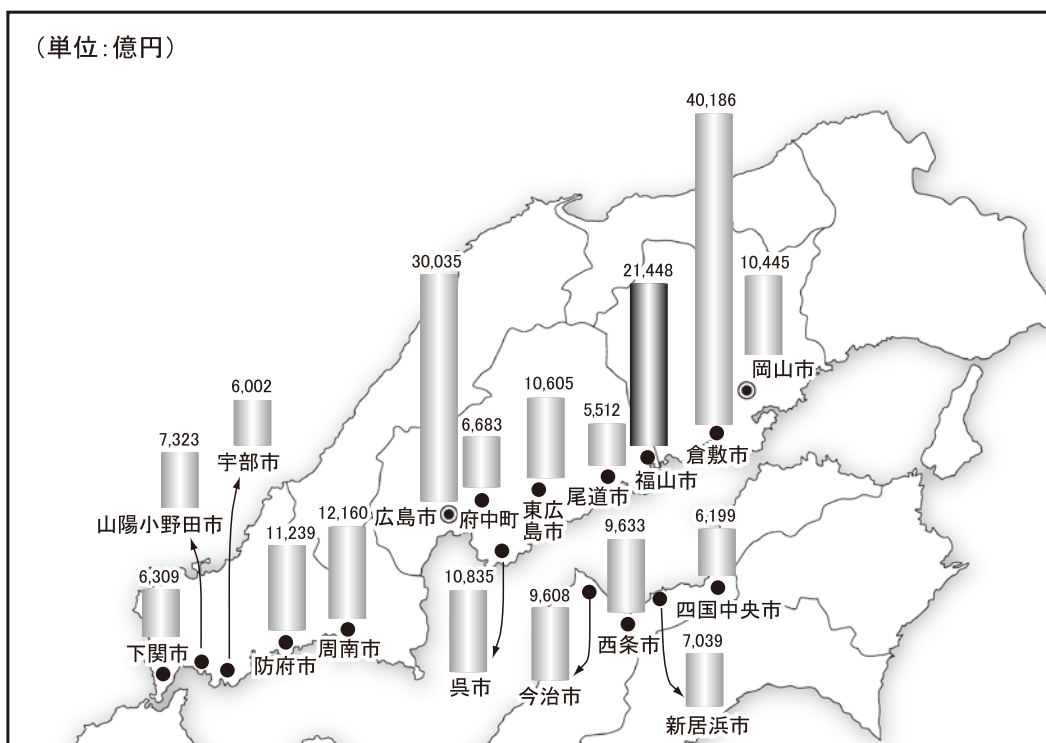
平成28年経済センサス-活動調査(従業者4人以上)によると、平成27年の福山市の製造品出荷額等は2兆1,448億円(対前年比928億円増、4.5%増)、事業所数は1,371業所(同144事業所増、11.7%増)、従業者数は38,240人(同159人減、0.4%減)となっている。

製造品出荷額等は3年連続増加、広島県全体(10兆3,428億円)の20.7%を占める。

平成28年経済センサス-活動調査で、平成27年の製造品出荷額等をみると、鉄鋼業(8,146億円、構成比38.0%)、電子部品・デバイス(4,773億円、同22.3%)、輸送用機械器具(1,495億円、同7.0%)が高い割合を占め、そのほか、電気機械器具、生産用機械器具等の機械工業など、特定の市場で高いシェアを有する、オンリーワン・ナンバーワン企業が多数集積している。

中四国の主要都市の製造品出荷額等(平成27年)(速報値)

※製造品出荷額等が5,000億円以上の都市



福山市工業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

(単位:事業所、人、億円)

年	平成20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
事業所数	1,516	1,376	1,347	1,425	1,284	1,252	1,227	1,371
従業者数	43,359	38,808	39,230	37,939	37,245	38,484	38,399	38,240
製造品出荷額等	20,708	17,049	17,921	18,655	16,812	18,284	20,520	21,448

平成27年の欄の事業所数・従業者数は平成28年の値。

「広島県の工業」